

---

## 安全データシート (SDS)

---

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：防錆油含有熱可塑性樹脂

製品名：シールピール・ハード

推奨用途と使用上の制限：保護コーティング材

会社名：株式会社 オーデック

住所：〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-14-13 高輪ミュージビル

担当部門：金属表面処理事業部

電話番号：03-6447-7461 FAX 番号：03-6447-7405

E-mail：info@audec.co.jp

---

### 2. 危険有害性の要約

【GHS分類】非該当

【シンボル】非該当

【注意喚起語】非該当

【危険有害性情報】非該当

【注意書き】

《安全対策》

- ・火傷に注意すること。
- ・過熱注意。火気厳禁。
- ・取り扱い後は手をよく洗うこと。
- ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・必要な時以外は、環境への放出を避けること。

《応急措置》

- ・皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・皮膚刺激を生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
- ・気分が悪い時は、医師の診察／手当を受けること。

《保管》

- ・換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

《廃棄》

- ・内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。
-

### 3. 組成及び成分情報

成分名	含有率 %	CAS No.	官報公示整理番号	P R T R	備考
植物油類	非公開	非公開			
セルロース樹脂	非公開	非公開	既存		
防錆剤	非公開	非公開			鉱油含む
酸化防止剤	非公開	非公開	既存		

### 4. 応急措置

- 吸入した場合** : 固体なのでそのままでは吸入の危険性はほとんど無いが、加熱溶解時に過熱すると蒸気やヒューム、ミストなどを吸入する可能性がある。  
被災者を直ちに新鮮な空気のある場所へ移動させ、保温・安静にし、必要に応じて医師の診断を受けること。  
呼吸が不規則または止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸道を確認した上で人工呼吸を行い、直ちに医師の手当を受けること。嘔吐物を飲み込ませない様にする。
- 皮膚に付着した場合** : 汚染された衣類、靴などを速やかに取り除き、製品にふれた部分を大量の水及び石鹸水で十分に洗浄すること。溶剤・シンナーは使用しないこと。  
皮膚等に変化が見られたり、炎症を生じた時には直ちに医師の手当を受けること。  
特に、加熱溶解した液が付着した場合は、火傷の可能性があるため、付着物ははがさず、すぐに流水で15分以上十分に冷やして、直ちに医師の手当てを受けてください。
- 眼に入った場合** : 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、速やかに眼科医の手当を受けること。  
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗眼すること。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗眼すること。すぐに痛みが無く視力に影響が無くても障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診断を受けること。  
特に、加熱溶解した液が付着した場合は、火傷の可能性があるため、付着物ははがさず、すぐに流水で15分以上十分に冷やして、直ちに医師の手当てを受けてください。
- 飲み込んだ場合** : 吐き出さずに、水で口の中をよく洗い、直ちに医師の手当てを受けること。意識のない場合は、口から何も与えず、嘔吐物を飲み込ませない様にし、直ちに医師の手当てを受けること。
- 応急措置をする者の保護 : 適切な保護具(保護眼鏡、防護マスク、手袋等)を着用する。換気を十分に行う。  
医師に対する特別な注意事項 : 180℃以上の高温粘稠溶液との接触による火傷に対する対応が必要。

### 5. 火災時の措置

- 消火剤** : 粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧  
使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 特有の危険有害性** : 引火性液体を含んだ固体であり、高温にさらされると溶解し、引火性液体になる。
- 特有の消火方法** : 加熱溶解槽の中で引火した場合、できればすぐに蓋をして空気を遮断し、電源を切る。  
但し、火傷の危険があるので、無理はしないこと。  
周辺火災の場合は、容器を安全な場所へ移動する。移動不可能な場合は、容器の破損が生じないように注水し、冷却する。容器から内容物が漏出した場合は、可能ならば容器を熱源から遠ざけ、大量の水を注水して冷却し、固まるのを待ち、消火活動を行うこと。
- 消火を行う者の保護** : 熱分解や不完全燃焼により一酸化炭素などの有毒ガスが発生するので、適切な空気呼吸器や化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意：接触や吸入を避けるため、漏れた付近の周囲から人を退避させる。
- 事項、保護具及び緊急時措置：付近の着火源となるものを速やかに除くとともに、適切な消火剤を用意すること。  
屋内の場合は処理が終わるまで通風等により換気をよく行うこと。  
作業者は保護手袋、保護眼鏡、保護服、保護マスクを着用すること。
- 環境に対する注意事項：流出した内容物が河川等に排出されない様に注意すること。  
漏出物を直接、河川や下水に流さないこと。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：固形の場合は、密閉できる空容器に回収すること。  
高温液体の場合は、冷えて固まるまで待つか、乾燥砂、土、その他不燃性の物に吸着させて、密閉できる空容器に回収すること。  
作業には火花を発生しない器具を使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
付着物・廃棄物等は関係法規に基づいて処置する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策：眼・皮膚・粘膜との接触を避け、蒸気、ミストなどを吸入しないように、保護手袋、保護眼鏡、保護服、保護マスクなど適切な保護具を着用すること。特に、高温液状の商品は火傷のおそれがあるので、注意すること。  
引火の危険があるので、直火による加熱は行わないこと。  
高温溶液がこぼれない様に、加熱溶解槽は安定した場所に設置すること。  
加熱溶解槽は使用しない時は必ず蓋をすること。  
絶対に200℃以上に加熱しないこと。  
高温溶液に水や揮発性の高い溶剤などが入らないように注意すること。突沸の危険あり。  
火気を使用している室内で使用しないこと。火気厳禁。
- 安全取扱注意事項：直射日光の当たる場所に放置しないこと。  
換気の良い場所で使用すること。  
狭い室内や車内では使用しないこと。  
人体に使用しないこと。  
用途以外には使用しないこと。  
夏場など、輸送や倉庫などで高温にさらされた時に、固体表面にオイルがにじむことがあります。性能に問題はありませぬ。また、にじんだオイルは元には戻りませぬ。  
その他、表示された使用上の注意を守ること。
- 接触回避：混触禁止物質を同じ場所に取り扱わないこと。
- 衛生対策：情報無し

### 保管

- 安全な保管条件：換気の良い涼しい場所で袋を閉じて、施錠して保管すること。
- 技術的対策：袋を閉じて保管すること。  
直射日光の当たらない、換気の良い、涼しいところに保管すること。  
水、湿気の多い所に放置しないこと。  
子供の手の届かないところに保管すること。  
その他、表示された保管上の注意を守ること。
- 混触禁止物質：「10. 安定性及び反応性」参照。
- 安全な容器包装材料：ポリ袋または金属容器、耐有機溶剤用樹脂容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度：設定なし

設備対策：加熱溶解時は吸排気が十分にとれ蒸気、ミスト、ヒューム、粉じんのばく露を受けない設備にすること。

換気扇や各種電気設備には防爆構造のものを用いた方がよい。

取り扱い場所の近くには、安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具：呼吸用保護具；有機溶剤用防毒マスク

手の保護具；耐熱耐油保護手袋

眼の保護具；保護眼鏡（側板付きまたはゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具；長袖保護服。必要に応じて、保護前掛け、保護長靴。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状	固体
色	淡褐色
臭い	鉍物油臭
臭いの閾値	情報無し
pH	情報無し
融点・凝固点	約 115℃（融解開始温度）
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報無し
引火点	215℃（COC）
蒸発速度	情報無し
燃焼性	情報無し
爆発範囲（爆発限界）	情報無し
蒸気圧	情報無し
蒸気密度	情報無し
比重（相対密度）	1.13
溶解度	水に不溶
n-オクタン-1-オール/水分配係数	情報無し
自然発火温度	280℃
分解温度	情報無し
粘度（粘性率）	情報無し

## 10. 安定性及び反応性

反応性：通常の使用・保管条件では反応性無し。

化学的安定性：通常の使用・保管条件では安定。

危険有害反応可能性：強酸化剤や高温の表面との接触、火花または裸火により発火。

避けるべき条件：強酸化剤との接触。裸火などの着火源。

混触禁止物質：強酸化剤。

危険有害な分解生成物：熱分解により一酸化炭素等が生成する可能性あり。

1.1. 有害性情報

成分名	LD50M	LD50S	LC50R	皮	眼	呼	変	発	生	単	反	吸
植物油類	>10000											
セルロース樹脂												
防錆剤	>5000											
酸化防止剤	800 (Lo)			2	2A							

※略記号(データ及びGHS区分)

LD50M:経口(主としてラット)mg/kg、LD50S:経皮(主としてウサギ)mg/kg、LC50R:吸入(主としてラット)ppm、  
皮:皮膚腐食性/刺激性、眼:眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性、呼:感作性-呼吸器または皮膚、  
変:生殖細胞変異原性、発:発がん性、生:生殖毒性、単:特定標的臓器毒性(単回ばく露)、  
反:特定標的臓器毒性(反復ばく露)、吸:吸引性呼吸器有害性、外:区分外

※分類対象外、分類できないは省略

1.2. 環境影響情報

生態毒性 : 情報無し  
残留性・分解性 : 情報無し  
生物蓄積性 : 情報無し  
土壌中の移動性 : 情報無し  
オゾン層への有害性 : 情報無し

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託してください。  
汚染容器・包装 : 同上。

1.4. 輸送上の注意

国際規則 : 航空輸送はIATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。  
国連番号 : 非該当  
国連品名 : 非該当  
国連分類 : 非該当  
容器等級 : 非該当  
副次危険性等級 : 非該当  
海洋汚染物質 : 含有なし  
国内規則 : 陸上輸送; 消防法、労働安全衛生法等の輸送について定めるところに従う。  
海上輸送; 船舶安全法の輸送について定めるところに従う。  
航空輸送; 航空法の輸送について定めるところに従う。  
緊急時応急措置指針番号; 非該当

1.5. 適用法令

消防法 : 指定可燃物 可燃性固体類  
労働安全衛生法 :  
施行令第18条(名称等を表示すべき危険物及び有害物) 非該当  
施行令第18条の2別表第9(名称等を通知すべき危険物及び有害物) 鉱油  
施行令別表第1(危険物) 非該当

---

特定化学物質障害予防規則：非該当  
化学物質による健康障害防止指針；非該当  
化学物質管理促進法：指定化学物質リスト（P R T R法）非該当  
毒物及び劇物取締法：非該当  
航空法                  ：施行規則第194条 危険物告示別表第1 非該当  
船舶安全法              ：危規則告示別表第1 非該当  
大気汚染防止法      ：第2条  
（揮発性有機化合物）非該当  
（有害大気汚染物質）非該当  
施行令第10条（特定物質）非該当  
水質汚濁防止法      ：  
施行令第2条（有害物質）非該当  
施行令第3条 ノルマルヘキサン抽出物質含有  
施行令第3条の3（指定物質）非該当  
土壤汚染対策法      ：施行令第1条（特定有害物質）非該当

---

#### 16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手した情報に基づいて作成していますが、記載のデータや評価に関してはいかなる保証をなすものではありません。

注意事項は、通常の取り扱いを対象としたもので、特別な取り扱いをする場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、取り扱い願います。

#### 引用文献等

（独）製品評価技術基盤機構公表GHS分類結果  
I C S C国際化学物質安全性カード

---